

〈特集：くにたち公民館と若者たち〉

世界が、ちょっと広がるどころ。

コーヒーハウスへようこそ！

新しい年のはじまりに公民館で活動する若者4人が綴る、
出会いと楽しさのつながり事始め——。

喫茶わいがや
+
しょうがいしゃ青年教室
||
コーヒーハウス



第 767 号

2024年 1月 5日

(令和 6年)

「くにたち公民館だより」

ホームページ▶



公民館に入ると、時々ふわりと
コーヒーの香りが漂ってきます。
市民交流ロビーの横にある喫茶わ
いがや、その奥にある「青年室」。
見渡すと、ハンドドリッブコーヒ
ーを淹れるわいがやのスタッフ。
青年室には、コーヒーを片手にお
喋りをするしょうがいのあるメン
バー、傍らにはパソコンに向かい
課題にいそしむ大学生……。40年
ほど前、しょうがいのある・なし
をこえて若者たちが出会い、一緒
に楽しみ、学び合おうと始まった
「コーヒーハウス」は、いまも若
者たちのわいわいがやが溢れ
ています。



丁寧に開店準備を……(喫茶わいがや)

迎春
発行
国立市公民館
〒186-0004
国立市中1-15-1
TEL 042-572-5141
FAX 042-573-0480
休館日：毎週月曜日

ラフト、みんなで企画し実行する
「YW」などのコースに分かれ
て活動しています。全体で行う、
夏企画（BBQなど）やクリスマス
会、合宿といった年間行事も。
今回の特集では、スタッフにコ
ーヒーハウスへの思いを綴っても
りました。職員と一緒に編集を
担当したのも、大学院生のスタッ
フです！ コーヒーハウスの魅力
の一端を感じ、そして、仲間にな
っていただけばと思います。

僕がしょうがいしゃ青年教室
（※以下、しょう青）と関わり始
めたのは中学生の頃でした。中学
校から国立市に転校してきたので、
地域のつながりなんて全くありま
せんでした。友達に誘われて公民
館の中高生の学習支援「LABO
☆くにスタ」に行くようになりま
した。そこで大学生、地域の大人
職員さんなど、様々な人と関わり
をもち、しょう青のスポーツ講座
に誘われました。この講座では毎
月1回みんなで決めたスポーツを
します。バスケットからボウリング、
ゴルフボール、ドロケイと運動に
関わるものならなんでもやります。
元々運動するのは好きなので楽し
みな反面、人見知りなので当然最
初は「怖い人がいないといいな」
とか「他の人たちと仲良くなれる
のかな？」などマイナスなことば
っかり考えていました。しかし、
行ってみたらめちゃくちゃ話しか
けてくれてすぐに仲良くなれまし
た。第一印象はとにかくウェルカ
ムという感じで、すごくあったか
い場所でした。



昭和記念公園で青春？（スポーツ）
※中央下が萩原さん

運動をガチガチにやるというよ
りは、みんなで楽しくやるところ
がとても自分に合っていると感じ
ています。また、知らないスポー
ツに出会えるところも楽しいとこ
ろの1つです。実際に体を動かし
てみると、これが結構おもしろい
んですよ。こういった発見は一
人ではなかなか出来るものではな
いので、楽しくやらせてもらって
います。そして、1番の魅力は、
年齢やしょうがいなど様々な壁を
越えて友達みたいに関われるとこ
ろです。上とか下とか、そんな硬
い関係はありません！ そういつ
たところに、スポーツ講座のみな
らず、しょう青の魅力が詰まって
いると思います。

「喫茶わいがや」の隣の青年室です。特に
理由もなく、ふらっと寄って時間
を過ごせる良い意味でのみんなの
溜まり場になっています。いわば
秘密基地のような場所です。あな
たも心休まる居場所をぜひしょう
青に作りませんか？ 青年室でい
つでもお待ちしております！

来るもの拒まず——

コーヒーハウスに浸る

高田 佳汰



B B Q終わりに追いかけっこ(※右端が高田さん)

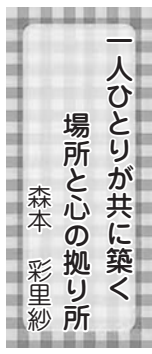
自分がコーヒーハウスに関わるようになったのは大学2年生の10月です。それ以前は、公民館で行われている学習支援の「LABO ☆くにスタ」に参加していました。そこで友達から、「ソフトボール大会(毎年10月のコーヒーハウスの定期イベント)があるから来ないか」と誘われ、ノリで参加を決めました。当日は、メンバーさんスタッフさん共に、知らない人ばかりで最初は緊張しました。けれども、みんなが気さくに話しかけてくれたおかげで、思いつきり楽しめました。また、印象に残ったことといえば、大会後のスタッフ打ち上げです。こんな経験は初めてで、大切な思い出として記憶

に刻まれています。年の近い学生と話したり、酔っ払った大人と話したりと、全てが新鮮で最高でした。なにより、「タカタクくんが来てくれてよかった」とか、「また参加してね」とか、嬉しいお言葉をいただき、とても温かい空間だなあ、また参加したいな!と強く思いました。そこから、僕はコーヒーハウスに浸かっていくようになりました。特に印象に残った活動は、Y Y Wで行ったキウイ狩りや、喫茶わいがや(公民館内の喫茶店)の市民祭出店、夏企画で行ったB B Qです。キウイ狩りでは、国立市内のキウイ農園に行き、いろんな種類のキウイを採りました。「狩り」も「味」も最高でした。市民祭の出店は、前日の買い出しや当日の接客など、高校の頃に某ウィルスの影響でできなかった文化祭の悔しさを挽回できました。また、国立市の盛り上がりも体感しました。

B B Qは、立川の某ビーチに行き、買い出しや火起こしなど協力しながら楽しむ感じでした。肉を喰らい、砂場で遊び、仲間との絆が深まったと思います。このように、コーヒーハウスは、サークル的な活動をした人や人脈を広げたい人にうってつけの場所だと自分は感じています。ここは、とてもあたたかい空間で、「来るもの拒まず」な場所です!是非僕たちとこの活動を盛り上げませんか!?

今これを読んでいる若者ツツ!大人ツツツ!

コーヒーハウスの活動一緒に盛り上げようぜツツツ!



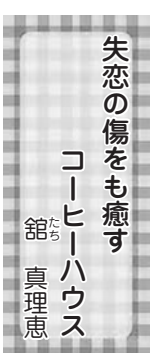
コーヒーハウスに関わり始めて約2年。大学の実習をきつかけにコーヒーハウスに足を踏み入れた

が、コロナ禍における活動の制限がある中でも、多くの話し合いと工夫を重ね、一人ひとりが「居場所」を保ち続けようとする姿に非常に心を動かされた。私が主に参加しているのは、料理講座である。いつも料理講座に向かう道中は、今回はどんな講座になるのかな...と楽しみ半分、不安半分でそわそわしながら向かっている。それでもいざ講座が始まると、私の不安はスッと軽くなる。それは、講座は一人ではなく、みんなで創っているものだと実感できるからだ。毎月様々なメニューを、みんな

で一緒に作って一緒に食べる。文字にすると簡単だが、実際は結構大変だ。お米を研いだり、野菜を切ったり、材料を炒めたり...。安全面に気を付けてみんなで役割分担をして作業を進めていく。しかし、その「みんなで」作業を共にすることは、とてもとても楽しい。講座において、私は正解を追求しているわけではなく、場を介して活動をするこの楽しさが生み出されたいと思っている。そのため、料理も、綺麗に完成することが目的ではなく、その作る過程が大事だと感じる。野菜がでこぼこだっていいし、ちょっと味が薄くたって、見栄えが悪くても全然いい。一緒に料理をして食べる中で、スタッフやメンバーとの会話や関わりを通じて新たな一面や思いに触れ、試行錯誤しながらも笑顔で活動できる雰囲気がとても好きだし、大切にしたい。コーヒーハウスには、たくさん



森本さん。丁寧に行程を確認(料理)



本題に入ろうと思う。

ある日、Y Y Wのスタッフとして公民館を訪れると、喫茶わいがやのカウンターでうなだれている男を発見した。Dくんである。私を見るやいなや「館さん！聴いてくださいよお！」と今にも泣きそうな顔でこちらを見ている。講座終わりに打ち上げも兼ねてみんなで話を聴くと、彼は失恋していた。しかも「相手の裏切りを伴う形で」。私も数年前に同じ経験をしていたがために、彼の気持ちは痛いほど分かった。彼の話を聴き、いくつかの助言を終えると「今日は本当に助けられました！」と幾分か明るくなった彼の顔があった。

いや、救われたのはむしろ私の方でもある。過去の自分の苦しい思いが昇華されて、なんだか報われた気分だった。自分の経験が他人を助けたなら、これほど嬉しいことはない。

さて、冒頭で言ったしよう青の「それ以上の意味合い」の1つが、「第三の居場所」であると思う。

私の失恋当時は、相手がサークル仲間だったためサークルの行事にも行けなくなつたが、そこに丁度コーヒーハウスの合宿があり救われた、という経験もある。そして、家でも学校でも職場でもない居場所だからこそ、程よい距離感で、

純粋に人生の先輩・後輩として話せるのだと思う。何より普段の活動を通して、多様性を受け入れるだけの素地ができている。

ぜひ、人生の先輩や後輩とお話しにきませんか？失恋相談は館またはDくんまで♡



水族館へのバスハイイクでイルカと
(※真ん中が館さん)

編集に関わって

菊地 宏亮 (こうすけ)

皆さんはお気づきですか？公民館に行きたくなっている自分に

私は、この空間をとっても愛おしく思っている。活動の中で純粋に笑い、他人の近況を聞き刺激をもらう。時々、事件も起こる。だが、それも含めて愛おしい。

コーヒーハウスには素敵な知り合いが沢山いる。それを皆さんには知ってほしい。そして、少しでも興味をもってもらえたらこれほどうれしいことはない。青年室でお待ちしておりますね。

〈講座・共生社会のマナビ〉

共生社会への道はいかにひらかれるか

—しょうがいしゃの地域活動の軌跡から—

お 話 加藤 旭人 (くにたち五日制の会・一橋大学大学院社会学研究科研究補助員)
丹羽 康子 (くにたち五日制の会)

いま、しょうがいしゃの生涯学習や余暇の保障、共生社会の実現が社会的課題になっています。

国立市では、「くにたち五日制の会」が、学校週五日制が実施された1992年から、「しょうがいのある人もない人も、共に育み合う仲間として、地域でかかわりあながら楽しく過ごす」活動を続け、このたび令和5年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受けました。これを機に、五日制の会にボランティアとしてかかわり研究をしている加藤さん、五日制の会を牽引してきたしょうがいしゃの親でもある丹羽さんと、共生社会をつくる地域や学びのありようを考えます。

と き 2月18日(日) 昼2時～4時
ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(申込先着順)
申込先 1月16日(火) 朝9時～電話で公民館へ

前号特集3ページにて、2004年に「詩の会・福岡塾」が生まれたと記載しましたが、2002年の「詩のワークショップ」第一期終了後から自主サークル活動がはじまり、その後呼び方が変わっていった経緯について、関係者の方からご指摘いただきました。従って、「福岡健二さんが講師だった「詩のワークショップ」参加者の自主サークルは、第一期終了時から始まりました。その後、「詩の会・福岡塾」として活動を続けています。」でした。また、講座のあゆみに掲載した2007年のゲストのお名前に誤りがあり、正しくは「新井豊美」さんでした。お詫びして訂正いたします。

12月5日号P2～3〈特集②〉
「詩のワークショップ」と福岡健二の記載内容について

コーヒーハウスの仲間になりませんか？

～ボランティアスタッフ募集中～

遊ぶ！つながる！世界が広がる！

しょうがいしゃ青年教室

いろんな「遊び」と「学び」にいっしょにチャレンジ。ボランティア未経験でも大丈夫。一緒に楽しめればOK。

内容：①スポーツ②料理③クラフト④Y Y W (自由企画) ⑤季節の行事などの企画・運営

日時：基本的に土日開催。1回2時間程度。

“自分たちの喫茶店”を一緒につくろう——。

喫茶わいがや

コーヒーを淹れ、好きな音楽を流し、時々、お客さんとおしゃべり。ゆるやかにつながりながら、みんなで作る喫茶スペース。

内容：喫茶スペースの運営(しょうがいのある方と一緒に、ハンドドリップコーヒーを淹れたり、簡単なメニュー(トーストセットなど)をつくったりします。)

日時：火～日曜の11:30～19:00のうち、参加できる好きな時間。1回1時間からOK

対象：高校生から30代くらいまで
申込先：ホームページより申込



シネボックス
〈CINEVOX 公民館映画会〉

『男はつらいよ 寅次郎夢枕』

松竹 1972年 カラー98分 ※DVD版

監督・原作・脚本 山田洋次 音楽 山本直純
出演 渥美清、倍賞千恵子、八千草薫、米倉斉加年、
田中絹代、前田吟、松村達雄、笠智衆 ほか

「わたくし 生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯をつかい、姓は車、名は寅次郎、人呼んでフーテンの寅と発します！」ご存知《フーテンの寅さん》が巻き起こす、恋と笑いと人情の大騒動！今回は、マドンナに八千草薫を迎え、ますます寅さん絶好調のシリーズ第10作を上映！

とき 1月28日(日) 昼2時～(開場昼1時30分)
ところ 公民館 地下ホール 定員 70名(申込先着順)
申込先 1月11日(木) 朝9時～電話で公民館へ

*事前申込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申込みください。
*換気のため、途中で10分程度休憩を設けます。ご了承ください。

〈郷土文化館・公民館・図書館3館連携事業〉

巡回写真展『くにたち あの日、あの頃』と
ギャラリートーク「高度成長期のくにたち」

本写真展では、町報・市報に掲載された数多くの写真の中から、昭和30・40年代を中心にご紹介します。人口が5万人を突破し、「国立市」が誕生した昭和42(1967)年から、既に半世紀以上が経過しました。写真に取められた当時の街並みや人々の暮らしから、今の私たちの暮らしに続く地域史を再発見してみませんか。

会期中には、かつて写真展と同名の写真集の編集を担当された荒井さん(当時、郷土文化館館長)によるギャラリートークも開催します。ぜひ参加者のみなさんと、写真を通じてくにたちのまちのあゆみをふり返りたいと思います。

*写真展は、郷土文化館(12月に終了)、公民館、くにたち中央図書館(2月9～26日)の順に開催します。巡回場所で一部展示を入れ替えますので、ぜひ各館で写真展をお楽しみください。

写真展
とき 1月11日(木)～1月28日(日)
ところ 公民館 1階市民交流ロビー ※1月15日、22日は休館日

ギャラリートーク「高度成長期のくにたち」
講師 荒井 敏行(元郷土文化館館長) ほか
とき 1月20日(土) 朝10時～12時
ところ 公民館 1階市民交流ロビー
定員 20名(申込先着順)
申込先 1月9日(火) 朝9時～電話で公民館へ

くにたち デジタルブック

過去の公民館だよりをご覧になりたい方は、『くにたちデジタルブック』もご活用ください。

国立市デジタルライブラリー 検索

〈ドラマ教育講座〉 **演劇教育って何だろう？ ～身体が動くと、心も動く～**

講師 石井 路子 (ドラマティーチャー、芸術文化観光専門職大学)

「ドラマティーチャー」と呼ばれる存在を知っていますか？学校で教科として演劇を教える先生のごことで、日本では数名しかいないそうです。

講師の石井さんは、福島県の高校の国語の教師として、また演劇部の顧問としてご活躍されていましたが、生徒たちの様子などから学校教育を変えていきたいと思うようになりました。その後、高校の「総合学科」の立ち上げに携わり、ドラマティーチャーとして教鞭をとられ、現在まで演劇教育のカリキュラムや指導法について研究されています。

授業の目的は俳優養成ではありません。戯曲の知識などももちろん大切なのですが、教育の目標は「生徒が生きやすくなること」であると石井さんはおっしゃいます。自分の身体や心と向き合い表現し、他者を想像し、協働していく

……、演劇を通して人とつながる力、様々な問題と向き合い、人と人をつなげていく力をつけていくのだそうです。

今回の講座では、石井さんのご経験とともに演劇教育とはどういったものなのか、ドラマティーチャーとはどのような存在なのか、どのように若者と向き合ってきたのかなどについてお話いただくほか、後半では実際に身体を動かしてみます。

演劇教育の可能性について知り、身体を通して自分と、他者と向き合うということについて考える機会とします。

とき 2月8日(木) 夜6時～9時
ところ 公民館 地下ホール
定員 20名(申込先着順)
申込先 1月16日(火) 朝9時～2月6日(火) 夕方5時
電話またはホームページより申込
*動きやすい服装、運動靴でお越しください。



〈親子で遊ぼう・考えよう〉

60分で作るオリジナル絵本づくり

講師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

親子でオリジナル絵本作りを行います。時間がかかる絵本作りを、1時間で制作する方法で子どもの発想をたくさん取り入れながら作ります。今だけしか作れない世界で一冊の絵本を作りましょう。(図形などを取り入れた絵本になります)

とき 1月28日(日)朝10時~12時

ところ 公民館 地下ホール

持ち物 飲み物、汚れてもいい服装、お手拭き

対象・定員 子ども(4歳から小学生)と

保護者14組(家族単位です)

※応募者多数の場合抽選

申込先 1月10日(水)夜9時までに、

ホームページより申込



〈図書室のつどい〉 あなたもハマる!? 数学ひらめきクイズ

お話 横山 明日希

(株式会社 math channel 代表取締役)

数学を用いた様々な楽しいクイズに挑戦してみましょう。「数学は苦手……」という方でも大丈夫!今回は、「“体験”を通して算数・数学をもっと身近な学びに」を理念に掲げる、算数・数学コンテンツ企画・制作会社 math channel の代表である横山さんをお呼びし、算数・数学クイズをやさしく解説して頂きます。難しい数学の知識は不要です。クイズを解きながら、数学の不思議さ、面白さに触れてみましょう。(小学生も参加可能 ※4年生以上推奨)

お試し問題

6本の缶をなるべく短いロープで結ぶとしたら、どのような結び方がよいでしょうか。

〈横山さんの本〉

『はまると深い!数学クイズ』(ブルーバックス)、『文系もハマる数学』(青春出版)ほか。

とき 1月27日(土)昼2時~4時

ところ 公民館 地下ホール

定員 40名(申込先着順)

申込先 1月10日(水)朝9時~電話で公民館へ



〈性教育講座①〉

性を学ぶことはよりよく生きること ~「包括的性教育」のススメ~

性については、「子どもにいつ頃から、何をどのように伝えていけばいいのかな……」と悩んでいる子育て中の方も多いのではないでしょうか。現在子育て中の親世代は、学校などで性についてしっかりと学ぶ機会が少なかったため、性教育について悩んだり、戸惑うことが多いのかもしれませんが。

今回の講座では、ユネスコなどが提唱している、ジェンダー平等や性の多様性、からだの権利といった人権尊重を基盤に幅広く性を学ぶ「包括的性教育」を取り上げます。

第1回は「包括的性教育」とはどのようなものかというところから、世界の性教育の動向や日本の性教育の現状などのお話を伺います。また、カードゲーム等のアクティビティを通してこれまでの性教育に抱いていたイメージをほぐしていきます。第2回、第3回は子どもの年齢に応じた性のお話を伺い、理解を深めていきます。

包括的性教育は、人権を基盤に性についての学びを通して、誰もが幸せに生きることを目指しています。ぜひこの機会に一緒に学んでみませんか。性別問わず、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

3月中旬、子どもと保護者が一緒に学べる性教育講座を開催予定です。詳細は、2月号の公民館だよりに掲載予定です。

◆第1回 2月17日(土) 朝10時~12時

「包括的性教育ってどういうもの？」

講師 渡辺 大輔(埼玉大学)

※コーディネーターとして第2回、第3回にもお越しいただけます。

◆第2回 2月24日(土) 朝10時~12時

「幼児期編:幼児期にこそ育みたい“からだ観”」

講師 北山 ひと美(元和光小学校・幼稚園 校長)

◆第3回 3月2日(土) 朝10時~12時

「思春期編:思春期の子どもたちに伝えていきたいこと」

講師 樋上 典子

(関東学院大学、元公立中学校教員)

ところ 公民館 3階講座室

対象 子育て中の方、性教育に関心のある方

定員 25名(申込先着順、第1回は参加必須。第2、3回の参加はお子さんの年齢に合わせてお選びください。もちろん全回参加も大歓迎です!)

申込先 1月12日(金)朝9時~2月16日(金)夕5時

電話またはホームページより申込



—公民館の会場予約のご案内—

公民館の会場をより多くの団体が利用できるよう、各団体の利用希望を調整する機会を設けています。
3月～6月(ロビーは4月～7月)の会場調整会日程は以下の通りです。

■今後の会場調整会日程

使用希望月(ロビー)	(☆)申込書のポスト投入期間	(★)重なり団体の掲示日	会場調整会
3月(4月)	1月6日(土)～1月25日(木)	1月27日(土)	2月3日(土)10時～
4月(5月)	2月3日(土)～2月21日(水)	2月23日(金)	3月2日(土)10時～
5月(6月)	3月2日(土)～3月28日(木)	3月30日(土)	4月6日(土)10時～
6月(7月)	4月6日(土)～4月18日(木)	4月20日(土)	4月27日(土)10時～

●会場調整会参加の流れ

- ①表(☆)のポスト投入期間に、公民館1階入口正面の会場別ポストに「申込書」を入れてください。
- ②表(★)の日程で、重なり団体一覧を館内に掲示します。ホームページからもご確認いただけます。
- ③重なりの掲示があった団体…会場調整会への参加
調整会は1団体1名、第1希望が取れなかった場合の別の候補日や会場を想定して、最終的な判断ができる方がご参加ください。(開始時間に遅れたり、不参加の場合は、使用希望は取り消しとなります)



重なり団体一覧

重なりの掲示がなかった団体…
お申込みの日程で会場を仮予約できています
(調整会参加の必要はありません)
会場調整会の翌日以降、2階事務室へ本申込みにお越しください。

- ★「参加申込書」を提出していない団体の予約方法
- ・2階事務室での受付…会場調整会当日の午後2時～
 - ・電話での仮予約…会場調整会当日の午後3時～
- ※受付期間:午前9時～午後5時(月曜、祝日、年末年始を除く)

- *詳細や不明な点は、HPをご確認くださいか、公民館窓口にお問合せください。
*会場調整会は、公民館利用者連絡会のご協力により実施しています。



申込方法詳細

〈一橋大学連携講座〉

ディスカッション再考 ～書き言葉による議論の進め方～

現在、私たちはインターネットを介したコミュニケーションツールを日常的に用いています。特にコロナ禍以降、映像と音声とを使用するツールがより身近になり、ますますその依存度は大きくなっています。こうした環境の中で“議論”もまた頻繁におこなわれるようになりました。

しかしその“議論”を注意深く観察してみると、相手が何を言っているのか、自分が何を言っているのかをしっかりと理解するという“議論”の基本が疎かになっているケースが非常に目立ちます。もっとも、この問題は、実はコロナ禍以前から日常的に起こっていました。むしろコロナ禍を経てようやく日常的なディスコミュニケーションの可能性が顕わになったと言えるでしょう。この問題に取り組むために、本講座では特に書き言葉を用いることで、時間をかけて言葉の精査をおこなうことを目指します。

こうした課題に取り組むため、本講座では、現在一橋大学言語社会研究科の修了生数名で開発を進めている、書き言葉を用いるディスカッションアプリを使用します。この講座を通じて、皆さんと一緒に“議論”の基本に立ち返り、相手の言葉をよく読み、自分の使う言葉を吟味する方法を考えたいと思います。

*ご参加を希望の方は、可能であればPCを持参いただければと思います。難しい場合には貸し出しいたしますので、講座申込時に貸し出し希望をお申し出いただければと思います。

◆第1回 2月4日(日) 昼2時～4時
「“コメント”を吟味して書いてみよう」
講師 浦野 歩(言語社会研究科修了)

◆第2回 2月11日(日) 昼2時～4時
「“良い対話”とは何か考えてみよう」
講師 長田 祥一(言語社会研究科修了)

◆第3回 2月25日(日) 昼2時～4時
「“対話”を編集して“議論”にしてみよう」
講師 浦野 歩
納谷 耕世(一橋大学言語社会研究科)ほか。

◆第4回 3月3日(日) 昼2時～4時
「“議論”とは何か考えてみよう」
講師 長田 祥一
下山田 周平(一橋大学言語社会研究科)ほか。

ところ 公民館 講座室 定員 20名
(申込先着順。4回連続で参加できる方を優先。)
※タイピングなどの基本的な操作に慣れている方が対象です。

申込先 1月9日(火)朝9時～ホームページより申込



三原色で描く キミ子方式水彩画展

講座「シルバー学習室 第44期」の水彩画展を行います。三原色（赤・青・黄色）と白の絵の具で誰でも絵が描ける“キミ子方式”で描いた「もやし」「空」「毛糸の帽子」などを展示します。障害者センター「あさがお」、キミ子方式水彩画サークル「絵筆の会」との合同展です。

※「シルバー学習室」は市内に住む概ね60歳以上の方を対象に、料理、リトミック、自然観察、歴史、高齢者問題などを学んでいくなかで、新たな自分の発見や、受講者同士の交流・仲間づくりをしていく講座です。

期 間 2月6日（火）～11日（日）
と ころ 公民館 1階市民交流ロビー
連 絡 先 公民館 ☎（572）5141
障害者センター ☎（573）3344

〈くにたちブッククラブ 記憶の欠片をひろい集めて〉

小川洋子『約束された移動』

（河出文庫）

講 師 ^{お だいら} 小平 麻衣子（慶應義塾大学・日本近代文学）

と き 1月18日（木）夜7時半～9時半

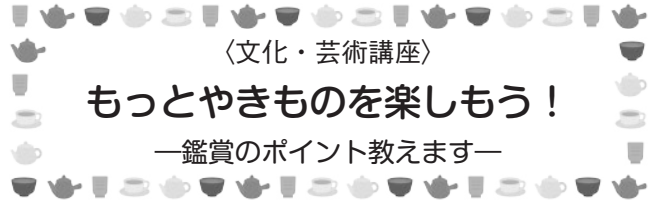
と ころ 公民館 3階講座室

定 員 30名（申込先着順）

申 込 先 電話で公民館へ

*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

※当初と日程、部屋を変更しています。



〈文化・芸術講座〉

もっとやきものを楽しもう！

—鑑賞のポイント教えます—

お 話 柏木 麻里（慶應義塾大学非常勤講師）

国内外問わず、世界には様々なやきものが存在し、古くから多くの人を魅了してきました。しかし、絵画などと違い、やきものは鑑賞のポイントが分かりづらく、「興味はあるけれど難しそう……。」と感じている方も多いのではないのでしょうか。今回の講座では、やきものの魅力を、出光美術館の学芸員として、陶芸の展覧会を数多く企画されてきた柏木さんにわかりやすく解説していただきます。

第1回では、縄文から近代の作品を辿りながら、各時代の主要な名品を紹介していただきます。第2回では、美術品としてのやきものの鑑賞のポイントや見どころを、やさしく解説していただきます。「やきものはハードルが高い……。」と思っている方も、この講座を受けて、やきものの奥深い世界に足を踏み入れてみませんか？

〈柏木さんの本〉『かわいいやきもの』、『もっと知りたいやきもの』（ともに、東京美術）ほか

と き 2月17日（土）、24日（土）いずれも昼2時～4時

と ころ 公民館 地下ホール

定 員 60名（申込先着順）

申 込 先 1月17日（水）朝9時～電話で公民館へ

公民館内の工事のお知らせ

2024年1～3月、公民館内で以下の工事を行う予定です。利用者の皆さまの安全に配慮して工事を行います。工事の日程につきましては、決まり次第、館内掲示などでお知らせします。

開館を維持しながら工事を行うため、ご不便、ご迷惑をお掛けしますが、ご理解をお願いいたします。

＜男子トイレ洋式化工事＞

各階、順番に工事を行う予定です。工事期間中（数日間）は使用できないため、他の階の男子トイレまたは「だれでもトイレ」をご使用ください。

＜図書室 段差解消機工事＞

工事期間中（数日間）、作業で使用する機械の音が発生します。また、段差解消機周辺は立入禁止となり、図書室内に作業員が出入ります。

＜地下 消火ポンプ取替工事＞

工事期間中（数日間）、作業で使用する機械の音が発生します。また、地下機械室周辺は立入禁止となります。

＜2階事務室内 非常放送設備入替工事＞

工事日に作業で使用する機械の音が発生します。

公民館運営審議会報告

12月12日（火）第34期第14回定例会を開催。委員13名、館長、職員2名出席。傍聴人4名。

前回事務録確認

議事録修正あり

報告事項

公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会、社会教育学習会より報告。来年2月3日（土）開催の第

六十回東京都公民館研究大会開催要項についての案内。テーマは

「『個』から始まる社会教育と人と

人とを結ぶ公民館の在り方について」

その他・矢川プラス見学会について報告。

審議事項

○人事要望案について

前回到引き続き、審議。副委員長より提出先を市長、教育長の他

社会教育委員・教育委員も含めた

旨提案あり。議論に向け準備する

ため、次回継続審議。

○諮問「公民館の運営や事業に『市民の声』を活かしていくための方法や工夫について」

2名（佐藤委員、幸島委員）より

進め方の提案有。審議のテーマを分

けることで合意。本日の審議会で3

つの検討委員会を設置。（インタビュー検討・アンケート検討）次回以降令和6年8月を提出予定として進める。
次回1月9日（火）夜7時15分から3階講座室。傍聴歓迎。
（北村）

ひろば



アクアかもめ水泳会員募集

運動不足の方、健康な体づくりに水泳を始めてみませんか。初心者〜上級者、泳力別にコーチの指導を受けて泳ぎます。男女問いません。体験可。(無料)
日時 毎週金曜日 朝10時〜12時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 梅原(572) 2281

推しをプレゼン楽しむ会

あなたの推しは何ですか。形のあるなしは無関係、何でも結構。それを発表し合って楽しく過ごしませんか。プレゼン能力を磨くことは、友達づくりになるかも。
日時 未定(発起時相談)
場所 未定(公民館内)
連絡先 入山(9818) 7901

くにたち国際友好会 WING

1月の国際理解講座は、中国出身で大学院時代に日本に留学し、現在は国立市在住の韓氷(ハンビン)さんに、「アジア暮らしの歴史」の会のお話をして頂きます。
日時 1月21日(日)夜7時〜9時
場所 公民館 講座室&Zoo m
連絡先 西江(9020) 7838

クラシックギター入門無料講座

日本語「さくら」を練習します。くにたちギタークラシカ主催。講師は三人のギタリストに師事した会員。3〜5月全6回。若干名募集。
日時 第2・4金曜朝10時〜12時
場所 東地域防災センターなど
連絡先 こみや(4027) 6974

数学を楽しむ集い

数学の不思議を解き明かします。身近な話題からパズル、図形、統計まで色々な話題を紹介します。驚きと謎があふれる数学の世界に気軽にお越し下さい。お電話を！
日時 1月13日(土)27日(土)昼1時〜
場所 公民館 集会室等
連絡先 山本(572) 1028

今月の公民館 (1月〜2月)

- 1月11日(木) 朝〜 巡回写真展 『くにたち あの日、あの頃』
- 13日(土) 朝 図書室のつどい 『旅が教えてくれた人生と仕事に役立つ100の気づき』
- 13日(土) 昼〜 哲学講座 『長谷川宏さんと読む『日本精神史 近代篇 上』』
- 18日(木) 夜 ブッククラブ 小川洋子『約束された移動』
- 20日(土) 朝 ギャラリートーク「高度成長期のくにたち」
- 20日(土) 昼 映画上映会 『立ちどまった恋』
- 27日(土) 昼 図書室のつどい 「数学ひらめきクイズ」
- 28日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう 「60分で作るオリジナル絵本づくり」
- 28日(日) 朝〜 くにたちバードウォッチング入門
- 28日(日) 昼 シネボックス CINEVOX 『男はつらいよ 寅次郎夢枕』
- 2月4日(日) 昼〜 一橋大学連携講座 「ディスカッション再考」
- 8日(木) 夜 ドラマ教育講座 「演劇教育って何だろう?」
- 17日(土) 朝〜 性教育講座 「性を学ぶことはよりよく生きること」
- 17日(土) 昼〜 文化・芸術講座 「もっとやきものを楽しもう!」
- 18日(日) 昼 「共生社会への道はいかにひらかれるか」

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。

公民館 ☎ (572) 5141

公民館の状況▶



おとこの台所国立の会員募集

料理を通してボランティアを行う団体ですが、まず料理を作って楽しく食べましょう。初心者の高齢者男子大歓迎。会費は500円。エプロン・帽子・タオル・布巾要。
日時 初回1月28日(日)朝10時半〜
場所 公民館 実習室
連絡先 別府(3728) 9640

サークル訪問387 地域国際交流「まほうのランプ」

まほうのランプは国際交流のボランティア団体だ。地域に住む外国人の困り事などの日常の支援や、日本文化の体験や交流イベントなどを企画し、「隣人」としての外国人との共生を目指している。現在、会員は60名。代表の新井由利子さんは「行政区画に縛られず、地域として活動しています。『ねばならない』の考え方はしないのよ」と凛とおっしゃる。

会の名前の「まほう」は、一人ひとりの力は小さくとも、それが集まると大きな力となり、まるで魔法がかかったようにコトがうまく運ぶさまを、また「ランプ」は灯を指す。私たちはここにいますとあまねくメッセージを送っているように。

祖国での結婚式への招待、元留学生の30数年ぶりの突然の来訪、12月25日「メリークリスマス」とイスラム教徒からの電話、子が、孫が日本に留学します……会員と国立という地域で繋がった様々な交流は時間や文化の垣根を軽々と越えていく。

取材日は、折しも同会主催の「国際茶会」の日。台湾茶席・茶道・香道を同日に楽しめる贅沢な催しに参加してみても、三席三様、みんな

な違ってみんないいと実感した。

他には、一橋大学での「Explore Japan」の一環として留学生の着物体験会を担当している。体験会は2日間に渡り、26名参加という盛況ぶりだ。また、小学校で総合学習の時間に小学生と留学生が、それぞれの文化や暮らしを紹介しあう交流会を企画し、こちらも人気を博している。

市の「くにはたちの集い(旧成人式)」への留学生の参加サポートなど各所からの要望に応える形で、これからは地域に根差した活動は、ますます必要とされていくだろう。

日時:不定期
場所:市内各所

連絡先: 岡 satorisu717@gmail.com
mailto:matolamp@gmail.com

〈文・写真 小林 栄子〉



「国際茶会」で気軽に伝統文化を体験
2023年11月5日くにたち福祉会館